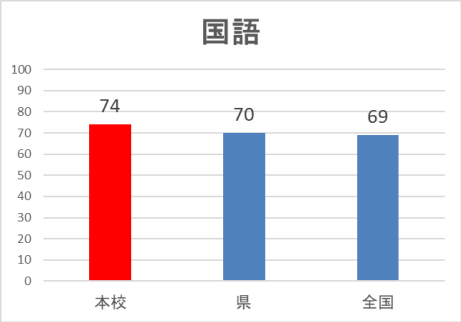
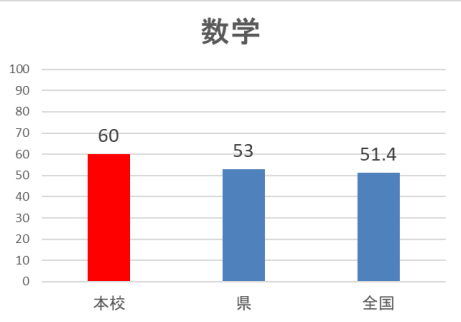
「令和4年度　全国学力・学習調査」の結果から

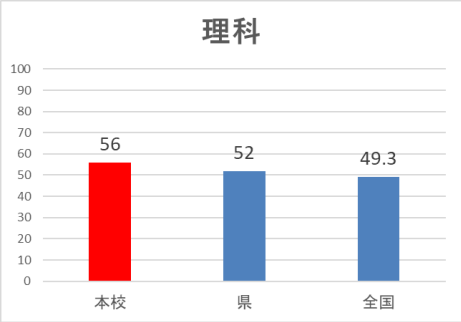
文責：教務主任　古野　寿

今年度の４月，第３学年を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この結果から本校の良さや課題，今後，取り組んでいきたいことなどを考えました。

１．「教科に関する調査」について







「教科に関する調査」は，「国語」「数学」「理科」の３教科で実施されました。その結果が上のグラフとなっています。西可児中学校では，すべての教科において，全国平均・県平均を上回る結果になりました。

国語においては，特に，「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「話す・聞く能力」に関する問題において，県や全国の平均を大きく上回りました。数学では，すべての問題で全国平均・県平均を大きく上回っていました。特に，「思考力・判断力・表現力」を必要とする問題では，全国平均を１０ポイント以上も上回るという結果でした。理科でも，すべての領域で全国平均を上回っています。基礎的・基本的な「知識・技能」はもちろん，その基礎力を「活用」する力も身についている点が本校３年生の大変素晴らしいところです。

２．「質問紙による調査」について

この調査は，質問紙を通して，生徒の意識や実態を調査するものです。この調査結果から，上記の「教科に関する調査」の調査結果が良かった要因が浮かび上がってきました。全国平均を８．６ポイントも上回った数学では，「数学の勉強が好きですか」という質問に対して，「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒の割合が全国平均の５８．１％に対して，本校では，６２．９％と高く，意欲をもって数学の授業に取り組んでいたことが，好結果につながったと分析されます。「好きこそものの上手なれ」という言葉がありますが，「自ら考え，自ら判断し，自ら表現する生徒の育成」を目指す本校にとって，「〇〇の勉強が好き」というのは，まさにその原動力です。「好きだから，主体的になれる」「学ぶことに前向きだから気づけることがある」のです。そして，こうした「気づき」から生み出された「わかった・できた」という実感は，きっと今後につながる学びになるはずです。西可児中学校では，生徒が主役となって，「教科の本質で楽しいと感じられる授業づくり」をこれからも目指していきたいと考えています。

こうした学びの大きな支えになるのが，ICT です。本校は，可茂地区研修校であると同時に，ICT 実践フィールド校でもあります。これまでも，ICT の効果的な活用ができるように実践を重ねてきました。その結果は，この質問紙調査にもよく表れています。「授業の中で ICT 機器をどの程度使用しましたか？（週１回以上）」という質問に対して，「あてはまる」と答えた生徒は実に９４.２％に及びます。さらに，「学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか？」という質問に対して，８９.５％の生徒が「思う」「どちらかと言えば思う」と答えていることから，こうした ICT 機器の有用感を生徒自身が感じながら活用が進んでいることがわかります。

また，今後，ICT の有効活用の方向性をどうしていくべきかを感じる調査結果もありました。「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか？」という質問に対しては，８２％の生徒が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えています。これは，全国平均の７８．７％を大きく上回る数字で，主体的に学ぶだけでなく，対話的にも学べていることがわかる数値になります。しかし，「学級の生徒と意見を交換する場面で，ＩＣＴ機器を，どの程度使っていますか？（週１回以上）」という質問になると「はい」と答えた生徒は４２．８％まで落ち込んでしまいます。つまり，生徒は，対話的な学びを行えているものの，そこに ICT 機器をまだ活用しきれていない現状があるということです。これを受け，本校では，ICT 機器を活用した思考ツールを使って，思考を可視化し，考えている過程を共有することで学びを深めることに挑戦しています。今後は，こうした実践をさらに積み重ね，より有効な ICT の活用方法を模索し続けるとともに，「学び」が教科を超えて結び付き，子どもたちの「ひとりだち」を支えるものとなるようにしていきたいと考えています。